

平成 23 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立岩美高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも誠実に対応でき、他者と協働して物事に取り組み、夢に向かって果敢に挑戦する人間を育成する。	今年度の 重点目標	1. キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力や態度を養う。 2. 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 3. 本校における確かな学力としての基礎・基本を明確にし、その定着を図るとともに学ぶ姿勢の更なる向上に努める。
---------------------------	---	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (10) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 自らの将来について主体的に考え、真剣に取り組む生徒の育成	○全教科全領域で、自己理解を深め、望ましい職業観を育てるキャリア教育の更なる充実を目指す。 ○進路実現のための系統的な指導方法の開発。	○本校独自のキャリア教育の多彩な取り組みにより、進路意識の向上が見られ、進路目標を持つ生徒が増加傾向にある。 ○進路決定率97.4%。卒業後短期離職率過去3年間で16.9%。	○進路実現100%。 ○2年次末までの進路志望未定者5%以下。 ○保護者を巻き込んだキャリア教育の推進。 ○進路情報を共有・活用して、職員研修を充実させる。	○個別面談の充実を図り、生徒一人ひとりの進路意識を把握し、意識啓発に努める。 ○1クラス複数指導体制で臨み、全職員による全体指導の充実を図る。 ○進路情報紙「Hop Step Jump」を活用するとともに保護者向け進路行事を充実する。 ○PTA進路部会設置を目指す。 ○卒業生の進路追跡調査を継続実施し、離職の原因を分析する。 ○進路情報を積極的に活用し、職員研修に役立てる。	○進路意識の醸成については、進路講演会、進路別説明会、学年PTA等を行い、進路意識を高めることに努めた。生徒、保護者アンケートの結果から、一定の成果が出ていると考えられる。 ○職員の企業訪問研修、上級学校訪問研修等は現在実施途中。今年度分が終了した時点で、職員間で情報共有を図り、生徒指導に役立てている。	C	○社会情勢の変化と生徒の状況変化に絶えず注意をはらい、キャリア教育を更に推進する。個別面談が非常に有効であり、個別面談による意識の高揚を図っていく。 ○保護者に対する情報提供の方法を工夫し、家庭での進路についての話し合いが促進されるよう努める。
2. 社会人としての基礎力の育成	○自身の生活について、自らを律して、考え、行動することができる生徒を育てる。 ○生徒会活動、部活動の活性化。 ○ボランティア、地域貢献活動の充実。	○身だしなみに対する評価は高いが、毎月の服装頭髪検査では昨年度前期クラス平均7.6人、後期5人の再検査者が出た。 ○部活動加入率は昨年度93%。部活動活性化月間等の取り組みが功を奏している。 ○ボランティア活動について、保護者の認識は得られているが、活動に積極的に取り組む生徒は約3割。	○服装検査の再点検者数は1クラス平均3人以内。 ○部活動全員入部を押し進め、継続的に部活動を頑張る生徒が全生徒の80%以上。更に中国大会・全国大会出場を目指す。 ○生徒会を中心に、地域に貢献する活動を実施し、ボランティア活動を積極的に推進する。	○全教科全領域における全職員の日常的なきめ細やかな指導による基本的生活習慣の確立、校則の徹底。 ○虹嶺祭をはじめ生徒の主体的な活動の場を設け、自発的な活動を促進する。 ○1年全員入部、部活動活性化月間の実施など、学校全体で部活動の活性化に継続して取り組む。 ○山陰海岸ジオパーク関連活動、地域の清掃活動を中心としたボランティア活動を行う。	○服装頭髪検査の再検査者数は平均10.2人。服装の細かな箇所での再検査者が半数以上。 ○登下校時、一部の生徒にマナー違反が見られるが、全体的にみれば、大多数の生徒は礼儀正しいとの評価を得られている。 ○全校集会等で自省を促す機会を持っている。多くの生徒は自らを振り返ることが出来ている。 ○部活動活性化月間等の取り組みにより、部活動を継続的に頑張る生徒が9割。	C	○現在の指導方法により、欠席・遅刻・早退指導、正しい服装・身だしなみ・挨拶・礼儀・マナー指導を更に押し進め、低学年からの定着を図っていく。 ○種々の場で職員間の意思統一、連携を図り、様々な角度から、生徒の指導にあたっていく。 ○更なる部活動の充実を図るため、活動のあり方についての検討を行う。
3. 確かな学力の定着と学ぶ姿勢の育成	○進路実現に向けた学力の定着。 ○毎日1時間以上の家庭学習の習慣化の促進。	○基礎・基本の学力の定着は進みつつあるが、進路実現のための学力が十分に身につけていない生徒もいる。 ○家庭学習状況調査では、調査前の家庭学習時間は確保されているが、平常時の平均家庭学習時間は昨年度48分。	○リスタート学習を推進し、基礎学力を定着させる。 ○進学に対応できる学力向上の取り組みを充実させる。 ○計画的に学習に取り組む姿勢を育成する。 ○授業における働きかけにより、平常時の家庭学習時間30分未満の生徒をなくす。	○リスタート学習について、進捗状況を確認し、学校全体のシステムの充実を図る。 ○公開授業の充実や研究授業月間を含め「わかる授業」を目指した授業力向上を図るとともに、校外での研修に積極的に参加する。 ○生徒手帳を活用させ、スケジュールを管理しながら計画的に学習に取り組ませる。 ○日々家庭学習に取り組ませるよう、各教科で、適宜、課題を提供し、課題の提出状況や内容の点検を徹底する。	○リスタート学習は新しい取り組みを取り入れ、学習意欲や意識の向上を図っている。義務教育の学習内容の理解が進んだと感じている生徒が約7割。 ○研修会・研究授業・公開授業へ参加者は現在約4割。 ○生徒手帳の活用はまだ不十分。計画的に行動する習慣の定着には至らない。 ○家庭学習時間は平常時平均59分、30分未満の者が約半数。	C	○リスタート学習は新しい取り組み、各教科、各学年の取り組みを検証し、教材の開発や年間指導計画の確立を図っていく。 ○研究授業月間等を活用し、研修体制を強化する。 ○生徒手帳活用について、教員が徹底して指導していく。 ○家庭学習の大切さを理解させるため、継続的な取り組みを行う。

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し

[100%]

[80%程度]

[60%程度]

[40%程度]

[30%以下]